

言談論

上木學會誌 編 言談論 論文 論著

望蜀片言

工學士佐藤四郎

電氣學會ヤ建築學會ハ已ニ古クヨリ設置サレ各其會誌ヲ發行セルニ、獨リ吾土木學會ノ存立ナカ
リシハ頗ル遺憾ニ思ヒタリシカ、這回吾人ノ最モ畏敬信賴セル吉市博士ヲ會頭ニ推戴シ先輩諸氏
ヲ理事トシテ昨冬其設立ヲ見、本年此戰勝ノ初春ニ其初號會誌ヲ發行セラレタルハ、吾人土木ニ從
事スルモノノ一大白ヲ舉ケテ祝賀スルトコロ也。

今後吾人ハ先輩諸氏及ヒ諸博士ノ名論卓說ヲ時々本誌上ニ拜見スルヲ得ヘク、又時ニ本會ニ於テ
ハ工學ニ關スル諸講演又ハ工程施工法等ニ關スル老練家ノ經驗談ヲ拜聽スルノ光榮ヲ得ル事ハ
期シテ俟ツヘキモノト信スル也。

然リ而シテ爰ニ吾人ハ大ニ先輩諸氏及ヒ諸博士ニ是非翹望セサルヘカラサル事アリ、之レ他ナシ
每號原稿ノ缺乏ヲ告ケス必スヤ有益ナル學說或ハ報告等ヲ陸續執筆投稿サレン事ヲ
蓋シ吾邦ノ技術家ヤ諸先輩及ヒ諸博士ハ概不筆不精ニシテ然モ沈默家ナルカ如シ、或ル専門ノ學
科ニ於テ唯一ノおそりて一ト云ハル、有名ナル博士ニシテ併モ未タ一篇ノ著書モナク一回ノ講
演タニ試ミシ事ナシト謂フカ如キハ吾邦ニ於テハ敢テ異數トスルニ足ラスト云フニ非スヤ、試ニ
歐米諸國ノ工學社會ヲ瞥見スルニ、土木ニ關スル著書ハ勿論雜誌ニ至ルマテ、實ニ汗牛充棟モ啻ナ

ラスシテ、殊ニ毎月又ハ毎週刊行ノ雑誌ノ如キニ至リテハ茲ニ一々其名稱ヲ列記スルマテモナク、記事有益ニシテ趣味豊富ナルモノ多々益々辨スヘキハ敢テ贅スルマテモナキナリ、又新刊工學書類ノ毎月吾丸善書肆ノ店頭ヲ飾ルヲ見ルモ孰レモ歐米知名ノ諸博士諸教授ノ執筆ニ成レルヲ見ルヘキ也。

然ルニ翻ツテ吾邦ノ土木ニ關スル著書ヲ一瞥スルニ其數ニ於テ將タ量ニ於テ又質ニ於テモ歐米ノ夫レト比較スル時ハ實ニ寥々曉星ノ如ク寔ニ隔世ノ嘆ナクシハ非ル也。

或ハ曰ク歐米諸國ハ其言語ト文章トハ全然軌ヲ一ニスルヲ以テ書ヲ著ハシ又ハ雑誌等ニ投稿スルニモ更ニ勞作ヲ要セス些ノ煩瑣ナキモ吾邦ニ於テハ大ニ然ラス、日常ノ言語ト書籍上ノ文章ハ其組織構成ニ於テ全然其性質ヲ異ニスルヲ以テ、或思想又ハ工事施工方法等ヲ文章ニ記述スルニハ頗ル面倒ニシテ一種ノ翻譯ヲ要シ大ニ修辭ニ手數ヲ要スヘシ、之レ吾邦ノ諸學者カ著書ノ少ナキ所以ナリト、夫レ或ハ然ラン、併シ吾人ハ全然斯カル言説ニ同意ヲ表スル能ハス、若シ果シテ文章ヲ構成スル事カ然カク難事ナラハ、強イテ文章ヲ成サハルモ可ナリ、普通ノ談話即チ口語體ニ描寫セハ充分ナルヘシ、其意志サヘ疏通セハ其文體修辭ノ如キハ豈敢テ問フ所ナランヤ唯夫レ吾人ハ吾邦ノ諸博士及ヒ諸先輩カ今少シ筆豆ニナリ本ナリ雜誌ナリヲ大ニ書カレン事ヲ切望ニ堪ヘサル次第也。

或ハ曰ク諸先輩及諸博士ノ執筆セサルハ前述ノ如キ文章ナトノ煩瑣ナル爲ニ非シテ其時間ノ無キ所以ナリト、即チ吾邦ノ諸先輩及ヒ諸博士ノ官ニ在ルト野ニ在ルトヲ問ハス、頗ル多忙多事ニシテ日々ノ職務甚タ雜駁ニシテ到底歐米人士ノ時間正整ニシテ職務時間外ハ全然無事閑散ナルトハ大ニ異ナリ、其家庭ニ於テモ訪問客鮮少ナラス到底悠然ト筆ヲ執リ著述ヲナス如キ時間ヲ見出ス事ヲ得スト云フ、此說ニ對シテモ吾人ハ毫モ服從スル能ハス、如何ニ多忙多事ノ人士ト雖一日

一時間位ノ餘裕ナシト云フヘカラス、若シ今假リニ一日一時間ノ餘裕ヲ得テ一頁草シ得ンカ、一年ニ三百六十頁ヲ草シ得ヘクスクリシテ一部ノ名篇著作ヲ得ルハ敢テ難事ニ非ス、若シ亦一日ニ一頁ヲ草スル能ハサレハ半頁ニテ可ナリスクリシテモ尙二年ノ短時日ヲ費サハ一部ノ有益ナル名著佳作ヲ社會ニ供給シ得ヘシ

尙一片吾敬愛スル諸先輩及ヒ諸博士ニ敢テ苦言ヲ呈セントスルハ講演ナリ、之レモ歐米ノ諸先輩カ機會ヲ得ル毎ニ各種ノ席上又ハ會合ノ卓上ニ於テ盛ニ其學說或ハ實驗談ヲ常ニ吐露スルニ反シ、吾諸先輩及ヒ諸博士ハ重ニ斯カル場合ニハ多ク沈黙ヲ守リ強テ或ル講演又ハ談話ヲ乞フニ非レハ決シテ發言ヲ好マス、歐米人ノ進シテ自ラ其蘊蓄ヲ吐露セント努ムルトハ全然反對ナリ之レ或ハ東洋君子國ノ美德ニシテ強テ己ノ學識ヲ表示セントスル如キハ探ルニ足ラサル所也ト云ハ指育サレン事ヲ(完)

土木學會設立ニ就テノ希望

工學士曾山親民

- 一、土木工學ニ關スル日新ノ學說ト各地工事ノ實例ヲ討議研究スルコト
- 二、本會ニ於テ發表討議スルモノハ豫メ提案者ヨリノ原稿ヲ本會議前ニ會員ニ配布シテ熟讀考究